

■ 英語の諺 401 ~ 500

★20220210 高橋伸治

401

Three removals are as bad as a fire.

日本語訳

引越し3回は火事と同じくらい悪い。

日本にも「引越し貧乏」という常套句があり、引越しの大変さは認識されています。

ライフステージに応じて、計画的に引越るのであれば問題は少ないと思いますが、破産などでやむを得ず引越する場合は望ましくありません。

因みに、かのベートーベンは、家を散

らかし放題にして、收拾が付かなくなると引越しを繰り返したと言われていきます。

402

Look at the bright side.

日本語訳

明るい面を見よ。

何事にも、「positive」な面と「negative」な面があります。要は、どちらを重視するかです。

この二面性を、19世紀に活躍したイギリスの劇作家オスカー・ワイルドは

「The optimist sees the doughnut, the pessimist sees the hole.」(楽観主義者はドーナツを見て、悲観主義者は穴を見る。)と言っています。標記の諺は、楽観主義を奨励しているということです。

403

One good turn deserves another.

日本語訳

一つの善行はもう一つの善行に値する

日本の諺としては、「情けは人のためならず。」に対応します。

まず、この日本の諺の誤解を解いておかなければいけません。

「情けをかけると、本人のためにならない。」とするのは間違いで、「相手にかけた情けが、巡り巡って自分に帰ってくる。」が正しい意味です。

標記よりわかりやすい諺として、「Give and take is fair play.」があります。

404

God tempers the wind to shorn lamb.

日本語訳

神は毛を刈られた子羊への風を優しくする。

日本の古い諺として、「神は慈悲深い」という意味の「天道人を殺さず。」があります。

標記の諺は、毛を刈られたばかりの子羊が強風に苦しまないようにしてくれるということです。

「shorn」は、「毛を刈る」という意味の動詞「shear」の過去分詞であり、形容詞的に使われています。

逆に、神は意地悪であるとする諺「The gods send nuts to those who have no teeth.」（神は歯のない者にナッツを贈る。）があります。

405

Look before you leap.

日本語訳

跳ぶ前に見よ。

少しニュアンスが違いますが、日本の諺の「石橋を叩いて渡る。」に対応します。

単に歩いて進むのではなく、「leap」には危険が伴います。

迅速に行動することも大切ですが、果たして間違った判断ではないのか、確認してみるべきです。

関連した諺として、「Second thoughts are best.」や「Measure twice cut once.」があります。

406

Half the world knows not how the other half lives.

日本語訳

世界の半分はもう半分がどう生きているか知らない。

日本の諺には対応するものは見当たりません。

中世ヨーロッパの封建社会においては、上流社会の人々は庶民の生活を知らないし、逆もそうでした。

グローバル化時代においては、先進国

と開発途上国との間の状況と言えます。
標記の諺を正しい文にすると、「One
half of the world does not know the
other half lives.」になります。

407

Two heads are better than one.

日本語訳

二つの頭は一つの頭より良い。

日本の諺ではもう一つ増えています、
「三人寄れば文殊の知恵」が対応して
います。

説明するまでもなく、一人より二人の

方が、倍とはいかないにしても、知識とアイディアは多くなります。特にアイディアは、相乗効果が出てくる可能性もあります。

因みに、日本では三人を評価していますが、英語圏では「Two is company, but three is a crowd.」（二人は仲間、三人は群衆）という考えもあるようです。

因みに、蛇足ですが、「Two heads are better than one even if the one's a sheep's.」という変化形もあります。

408

A soft answer turneth away wrath.

日本語訳

穏やかな答えは怒りをそらす。

日本の諺にはピッタリなものは見当たりません。

標記の諺は、旧約聖書中の「A soft answer turneth away wrath, but grievous words stir up answer.」（柔らかな答えは憤りをとどめ、激しい言葉は怒りを引き起こす。）の前段が諺になったものです。

「turneth」は「turns」の古い形で、現代語に代えた

「A gentle answer turns away wrath.」も使われています。

409

Lookers-on see most of the game.

日本語訳

傍で見ている者がゲームを最もよく観る。

日本の常套句としては、「傍目八目（岡目八目）」があります。

因みに、この「傍目八目」は、囲碁の世界で使われだした言葉であり、対戦者よりも、傍で見ている人の方が、戦局を見極めて正しい判断ができるものだという意味になります。

結論として、標記の諺も「傍目八目」も、ゲームばかりでなく、実生活やビジネスの場面でも通用する教訓と言えます。

410

There are plenty more fish in the sea.

日本語訳

海にはすごく沢山の魚がいる。

日本の諺ではピッタリなものは見当たりません。

意味としては、あまりに当たり前のこ

とですが、魚は、「手に入れられなかった何か」の例えとして使われています。失恋した女性に対しては、「世の中に男はいくらでもいるよ。」という意味になります。

バリエーションとして、「There are as good fish in the sea as ever came out of it.」（海にはこれまでの魚に劣らないよい魚がいる。）があります。

■英語の諺 411-420

411

A good beginning makes a good ending.

日本語訳

良い始まりは良い終わりを作る。

日本の諺としては、ほとんど翻訳と思われる、「始めよければ終わりよし」ということになります。

考えてみると、組み合わせとしては、始め良しかつ終わりよし、始め良しで終わり悪し、始め悪く終わりよし、始め悪く終わりも悪しがあり、必ずしも標記が真理と言う訳ではありません。

経験則から言えば、標記の方が「始め良しで終わり悪し」よりは確率が高いかも知れません。

一方、始めはどうしても良くて、「All is well that ends well.」（終わり良ければすべてよし。）という諺もあります。

412

Love begets love.

日本語訳

愛は愛を生む。

日本の常套句としては、「思えば思われる」が近いようです。

つまり、相手に愛情を持って接していれば、相手もこちらに愛情を持って接してくれるようになるということです。標記の諺は主に家族間の愛情がテーマのようですが、より広範囲にも使えるようです。

この「love」を「money」に代えた、

「Money begets money.」（金は金を生む）という諺もあります。

413

One hand for oneself and one for the ship.

日本語訳

一つの手は自分のために、そして一つは船のために。

日本の諺にはピッタリのものは見当たりません。

標記の諺は、言うまでもなく、元々は水夫に対する教訓として使われていま

した。

水夫は、船の操作が仕事であり、一所懸命に働くべきですが、先ずは片方の手で何かに捕まり、自分の安全を確保してからにすべきだということです。要は、自分の役割をきちんと果たすべきだとしても、死傷してもやれというわけではないということです。

414

Good fences make good neighbors.

日本語訳

良い塀が良い隣人を作る。

日本の諺にはピッタリのものはありません。

国際的にも、国境をめぐる紛争は枚挙の暇がありませんが、個人の住宅の境界に関するトラブルが起こりがちです。

標記の諺と同じ教訓となる説明がされている諺として「Love your neighbors, yet but pull not down your fence.」や「A hedge between keeps friendship green.」があります。

415

Love is blind.

日本語訳

恋は盲目。

「恋は盲目」は日本の常套句のように思われていますが、明治時代に、シェークスピアの「ベニスの商人」の一節を翻訳したもののようです。

その部分は「Love is blind, and lovers cannot see the pretty follies that themselves commit.」（恋は盲目だ、そして恋人たちは自分たちの小さな失敗が見えなくなる。）であり、標記はその冒頭に当たります。

同じ意味の諺として、「One cannot love and be wise.」があります。

416

One hand washes the other.

日本語訳

一つの手がもう一方の手を洗う。

日本では「相見互い」という常套句はありますが、諺としてはピッタリなものは見当たりません。

考えてみると、標記の諺はかなり哲学的です。

右手が左手を洗っているのか、その逆なのか、洗うという行為が両手を使わなければなりたないのか。

標記と同じ意味の「You scratch my

back and I'll scratch yours.」があります。

417

The good is the enemy of the best.

日本語訳

良いは最良の敵である。

日本の諺ではピッタリのものは見当たりません。

標記の諺では、「最良の結果が得られる可能性があるのに、良いの水準で満足してしまうべきではない。」としています。

しかし、これは価値観や生き方の問題であり、「欲張りすぎてすべてを失うよりも、良いの水準を受け入れるべきだ。」とする考えもあるわけです。

その場合は、「The best is the enemy of the good.」ということになります。

418

Some people cannot see the forest for the trees.

日本語訳

ある人々は木の代わりに森を見ることができない。

日本では「木を見て森を見ず。」が常套句になっていますが、これは標記の諺の翻訳とされています。

標記の諺の意味としては、森が全体、木は部分として、「全体を見るべきである。」としています。

個人の生活は兎も角、社会は様々要素が複雑にからまっていて、一部を取り出してしまうと、全体の問題解決を誤ることになります。

ただし、部分の分析も必要なことだと思います。

419

Love laughs at locksmiths.

日本語訳

恋は鍵職人を笑う。

日本の諺にはピッタリのものは見当たりません。

「恋愛」という意味での「love」をテーマにした諺の典型的なものは、「Love is blind.」や「One cannot love and be wise.」など、「恋している者は能力が劣っている」としてしています。

しかし、標記の諺では逆に「高い能力を発揮する」としてしています。

同じ意味の諺として、「Love will find a way.」があります。

420

There are tricks in every trade.

日本語訳

すべての商売に秘訣がある。

日本の諺としては、「餅は餅屋」や「蛇の道は蛇」が対応していますが、後者はいい意味では使われないので、少しニュアンスが違うかも知れません。

「trick」の元の意味は、「たくらみ・策略」、ハローウィンなどでは「いたずら」という意味で使われますが、ここでは、「巧妙なやり方・秘訣」という意味になります。

因みに、「the tricks of the trade」は「商売のこつ」の意味で使われます。

■英語の諺 421-430

421

Good seed makes a good crop.

日本語訳

良い種は良い収穫を作る。

日本の諺に、「梅檀は双葉より芳し。」がありますが、ピッタリとは言えません。

近年では、様々な作物の品種改良が進み、人工交配によるF1やゲノム編集による種苗ビジネスが成長し、それぞれ収穫に大きく影響しています。

標記の諺は、農作物以外の生産物の原料に関する話題や、時には「seed」が親の遺伝形質の例えとして使われています。

422

Love me little, love me long.

日本語訳

少し愛して、長く愛して。

日本では、1970年代から1980年代にかけて、大原麗子さんが登場するサントリーオールドの商業で、「すこし愛して、なが〜く愛して」というキャッチコピーが使われ、一世を風靡しました。

このフレーズの由来は17世紀に活躍したイギリスの詩人ロバート・ヘリック(1591-1674)の詩の一節とされています。

因みに、アグネス・チャンのアルバム「Love Me Little Love Me Long」(作詞:門谷 憲二・作曲歌唱:アグネス・チャン)として1981年に発表・発売されています。

One law for the rich one for the poor.

日本語訳

金持ちのための法律、貧乏人のための法律。

日本には、「人を見て法を説け。」という諺はありませが、標記とはニュアンスが違います。

標記の諺の背景には、「法律は基本的に金持ちに有利に作られている」という庶民の認識があります。

要するに、金持ちに有利な法律がある一方、貧乏人には縛るためだけの法律があるということです。

「and」以下を「another law for the poor.」としたバージョンもあります。

424

The grapes are sour.

日本語訳

その葡萄は酸っぱい。

この諺は、2,500年前のイソップ寓話の一つに由来し、地面から高い位置にある葡萄を採ろうとして、採れなかった狐の負け惜しみの言葉、「どうせ、熟していない酸っぱい葡萄に決まっている。」とされています。

標記の諺をそのまま使う状況は考えにくいのですが、誰かが負け惜しみを口

にした際、「Sour grapes」を使うことができます。

因みに、対になった言葉として。

「sweet lemon」があります。

425

Lucky at cards, unlucky in love.

日本語訳

カードにラッキー、恋にアンラッキー。

日本の諺にはピッタリのものは見当たりません。

ポーカーなどのカードゲームで実力があり、勝ち続ける人は、ことロマンス

の分野では運がないということが多い
ということです、
これは神様がバランスを考えて、特定
の人だけに幸運が偏らないようにして
いると思われれます。
ですから、「Unlucky at cards, lucky
in love.」という場合もあるわけです。

426

One man's loss is another man's gain.

日本語訳

一人の男の損失は他の男の獲得である。

日本の諺にはピッタリのものは見当た

りませんが、「勝者あるところに敗者あり。」という言葉は聞いたことがあります。

標記の諺は、「loss」と「gain」からアメリカンフットボールを想起させますが、ビジネスの世界の掟とも言えます。このことを反語的に表現した諺として、「It's ill wind that blows nobody any good.」（誰にも良いことをもたらさない風は悪い風である。）があります。因みに、男女平等の時代、標記の諺は「One person's loss is another person's gain,」となります。

427

Grasp all, lose all.

日本語訳

掴め全部、失え全部。

日本の諺としては、「大欲は無欲に似たり」があり、標記の諺の意味にもなります。

少し哲学的でもありますが、日本の諺の場合、「欲張りすぎるとすべてを失い、無欲であった場合と同じ結果になる」とするものです。

有名な諺「If you run after two hares, you will catch neither.」（二兎を追うもの一兎をも得ず。）に通じるものがありますね。

428

Soon ripe, soon rotten.

日本語訳

すぐ熟す、すぐ腐る。

日本では諺とは言えませんが、「早く熟すれば早く腐る」という常套句があります。ほとんど翻訳したものです。

人に関しては、「十で神童十五で才子二十過ぎれば只の人」という諺もあります。

標記と同じ構造の諺として、「Soon gotten, soon spent.」や「Soon hot, soon cold.」もあります。

また、「soon」を「early」に代えた「Early ripe, early rotten.」も使わ

れます。

429

Make haste slowly.

日本語訳

ゆっくり急げ。

日本の諺としては、「急がば回れ」が対応していますが、レトリックとしては標記の諺の方が洒落ています。

同じ意味になる、「More haste less speed.」も、交通安全標語になるように完成された諺と言えます。

因みに、「haste」を使った別の諺とし

て、「Haste makes waste.」（急ぎが無駄を作る。）も、韻を踏んだ見事な諺と言えます。

430

There are two sides to every question.

日本語訳

すべての問題に二つの面がある。

日本の諺ではありませんが、「物事にはおもてとうらがある。」という常套句は耳にします。

標記の諺は、一つの問題も立場によっ

て、特に対峙する加害者と被害者にとって、問題の受け取り方が異なるとしています。

また、より広く解釈できる諺は「There are two sides to every story.」、さらに比喩的な諺は「There are two sides to every coin.」になります。

■英語の諺 431-440

431

The grass is always greener on the other side of the fence.

日本語訳

フェンスの反対側の草が常により緑で

ある。

日本の諺として、「隣の芝生は青い」がありますが、おそらく、標記の諺が翻訳されたもののようです。

心理学の分野でしようが、洋の東西を問わず、同じクオリティのものでも、他人のものが良く見えるということは、経験則なのでしょうか。

同じ意味の諺として、「The apples on the other side of the wall are the sweetest.」があります。

ただし、どうして「最高に甘い」ことがわかったのかは不明です。

432

Man does not live by bread.

日本語訳

人はパンによって生きていない。

定訳としては、「人はパンのみにて生きるにあらず。」となり、「のみに」という言葉が補われています。

由来は、聖書マタイ伝中の、イエスが山の上で弟子たちと群集に語った教え「山上の垂訓」の一節ということです。要は、人は最低限の衣食住を必要としていますが、多くの人々との関わりの中で、他の大切なものがたくさんあるということです。

433

One man's meat is another man's
poison.

日本語訳

一人の男の肉は他の男の毒である。

直訳で考えると、「毒」という恐ろしい
ものですが、「受け付けないもの」と意
訳すると、日本の諺「蓼食う虫も好き
好き」と対応します。

ところで、標記の諺が成立した時期に
は、「meat」は「食料全般」の意味もあ
ったようです。

同じ意味で同じ構文の「One man's
gravy is another man's poison.」もあ
ります。

因みに、「gravy」は肉汁のことであり、
「快樂の象徴.」になります。

434

A great city, a great solitude.

日本語訳

偉大な都市、大いなる孤独。

日本の常套句として「大都会の孤独」
というものがありませんが、あるいは、
標記の諺の翻訳かも知れません。

本来、「孤独」という状況は、周りに人がいないことを意味します。しかし、大都市においては多くの人々に囲まれて暮らしているということになります。つまり、物理的には孤独ではないのに、地縁や血縁のない人々との関わりでは、孤独に苛まれるということです。

435

A man is as old as he feels, a woman is as old as she looks.

日本語訳

男は自分が感じるような歳であり、女は見た目の歳である。

意識すれば、「男は気持ちで、女は見た目で歳を感じる。」ということになり、日本の諺には近いものも見当たりません。

年齢は一義的には実年齢ですが、その他にも精神年齢、健康年齢、そして見た目の年齢もあります。

標記の諺は、男は気力という健康年齢が大きく、女は見た目の年齢が大きいと主張しています。

因みに、後段では、「is」が省略されることが多いようです。

Other times, other manners.

日本語訳

違う時代、違う礼儀。

日本の諺としては、「移れば変わる世の習い」が対応しています。

古代から現代にいたるもので、同じ地域であっても、知識や技術が進歩するに従って、人々の意識や社会制度も変化し、行動様式も変化し続けています。標記の諺は、このことを端的に表現しています。

因みに同じ時代でも、地理的に異なれば、行動様式も変わります。これに関わる諺として、「When in Rome, do as the Romans do.」が有名です。

437

Great minds think alike.

日本語訳

偉大なる心は同様に考える。

日本の諺としては、「賢者を知るは賢者なり。」がありますが、「賢者」という言葉が日本語的ではないので、元は海外の言葉の翻訳ではないかと思えます。標記の諺が使える状況としては、相手のコメントが「我が意を得たり」の場合、多少機知を効かせて言う台詞です。第三者からすると、傲慢な感じがする

ので、冗談と受け取られるようにすべきでしょう。

438

Sow the wind and reap the whirlwind.

日本語訳

風を蒔いて、大風を刈り取れ。

日本の諺としては、「事業自得」や「身から出た錆」に近いのですが、「小さな悪事から大きな災禍を招く」という、より悪いニュアンスがあります。

「whirlwind」は元々は、「旋風・竜巻」ですが、「拍手のあらし」の意味でも使われます。

同じ「sow」と「reap」を使って、前述した「自業自得」の意味になる諺

「As you sow, so shall you reap.」
(蒔いた種は刈らねばならぬ) があります。

439

A man is known by the company he keeps.

日本語訳

男は彼が維持している仲間によって知

られる。

日本にも同じ認識は明確にあると思いますが、諺にはピッタリのものは見当たりません。

ただし、この前提となる「朱に交われば赤くなる。」や「類は友を呼ぶ。」があります。

人は本心や本音を簡単には見せませんが、本人の言動ではなく、付き合っている仲間の言動から、当人の本質が垣間見えるということです。

主語を複数形にした「Men are known by the company they keep.」も使われます。

440

There is a remedy for everything
except death.

日本語訳

死以外のすべてに治療法がある。

日本の諺としては、「命あってのもの種」、つまり、生きていさえすれば、何か手段はあるということです。

標記の諺の原形は、15世紀にイタリアに見受けられ、「death」が治療できないという前提から、「命を粗末にするな。」という意味から、このようなレトリックが使われるようになったと思われま

す。

因みに、冒頭の「命あってのもの種」には「While there 's life, there 's hope.」がピッタリです。

■英語の諺 441-450

441

Great oaks from little acorns grow.

日本語訳

偉大な樫も小さなドングリから育つ。

標記の諺の意味に相当する日本の諺は見当たりませんが、「濫觴（らんしょう）」という言葉と通じるものがありま

す。

これは、中国の孔子の言葉とされ、「揚子江のような大河も、元は盃がやっと浮かぶ程度の小さな流れ」という意味です。

「Great」の代わりに「Big」が使われることもあります。

また、語順としては「Great oaks grow from little acorns.」の方が収まりがいいようです。

442

Man proposes, God disposes.

日本語訳

人が提案し、神が行う。

定訳は「人は企て、神は処置する。」になります。

日本の諺としては「人事を尽くして天命を待つ。」が近いでしょうか。

さらに神の力が偉大であることを示す諺として、「Men's extremity is God's opportunity.」（人間が追い詰められた時こそ神の出番である。）があります。

どちらにしても、人と神の力の違いを意味しています。

An ounce of practice is worth a pound of precept.

日本語訳

1オンスの実践は1ポンドの教えの価値がある。

日本の諺「論より証拠」に通じるものがありますが、ピッタリなものは見当たりません。

「An ounce」と「a pound」を対にした諺は、「An ounce of common sense is worth a pound of theory.」や「An ounce of prevention is worth a pound of cure.」など数多くあり、オリジナルを作成することもできそうですね。

因みに、「ounce」の16倍が「pound」

で、それぞれ、28.3495g、453.6g になります。

444

The greater the truth, the greater the libel.

日本語訳

真実が大きほど、侮辱は大きい。

日本の諺には対応するものが見当たりません。

まず、「libel」という見慣れない言葉を理解しないと全体の意味がとれません。

日本語訳では「侮辱」と訳しましたが、法律用語として「名誉棄損となるもの；侮辱，誹毀」の意味の言葉です。時代的には 18 世紀のイギリスの諺のようです。平たく言えば、「真実であるほど悪口は効いてくる。」ということです。

445

Manners maketh man.

日本語訳

礼節が人を作る。

日本の礼儀作法は、室町時代に武家の

作法として始まった小笠原流礼法が最も有名ですが、諺としてはピッタリなものは見当たりません。

洋の東西を問わず、礼法を身に着けてこそ上流階級の一員と見なされてきました。

標記のロングバージョンとして、
「Nurture and good manners maketh man.」(教育と行儀作法が人をつくる。)
また、現代語での「Manners make the man.」も使われます。

446

Out of debts, out of danger

日本語訳

借金から出て、危険から出る・

日本の諺にも「借金」に関するものは数多くありますが、標記の諺にピッタリなものは見当たりません。

借金は、個人的なことばかりでなく、帝国主義時代の国家間においてもそうだったように、担保にしたものを取られてしまう危険性がありました。

因みに、「danger」には「相手に支配される危険」というニュアンスがあることを知ると、標記の諺の意味合いがより理解できます。

447

A green Yule makes a fat churchyard.

日本語訳

緑のクリスマスは、協会の庭を太らせる。

「Yule」は、北欧やゲルマン民族の言葉から英語化したもので、冬至祭りを意味していました。

その後、クリスマスと同化していったようです。

要は、冬枯れではなく緑が残っている年は、むしろ死者が多く、墓地に葬られる人が多いという俗信があったようです。

因みに、日照時間の最も短い冬至は、

太陽が最も力を失っている日であり、その後陽が長くなることから、「復活」を象徴するようになったと言われています。

448

Spare the rod and spoil the child.

日本語訳

鞭を惜しんで子供を損ねる

日本では、盆栽などの考え方として、「矯めるなら若木のうち」という言葉があり、通じるものがあります。現代社会では許されないことですが、

中世のヨーロッパにおいては、子どもの躰に鞭が使われていたようです。調教の考え方ですね。

当時、王侯貴族の子供の場合、教師は本人を鞭打つことができないため、代わりに、「whipping boy」と呼ばれる子が鞭を受けたそうです。

449

To err is human.

日本語訳

過ちを犯すのは人である。

18 世紀イギリスの詩人ポープの言葉と

して、「To err is human, to forgive, divine.」（あやまつは人の常、許すは神のわざ。）

があり、その前段が諺となっています。

「あやまち」にも様々なありますが、「許すは神のわざ」ということですから、ここでは罪に問われる「あやまち」と考えられます。

現代社会においても、いわゆる「human error」が情報システムにおいても注意のポイントと言えます。

450

There is a sin of omission as well as of commission.

日本語訳

実行した罪と同様、不履行の罪もある。

まず、「omission」の意味ですが、「省略・怠慢」に当たります。日本の法律用語としては「不作為」があります。

いわゆる「やってしまったこと」は見た目にも明らかですが、「やらなかったこと」は存在していないので、把握することが困難です。

しかし、現代における育児放棄など、やるべき義務を怠ることはまさに「a sin of omission」として告発されることとなります。

■英語の諺 451-460

451

Habit is second nature.

日本語訳

習慣は第二の天性である。

日本の諺としては、「習い性となる。」
に対応します。

標記の諺も、上記の「習い性となる。」
も、日常生活で同じことを繰り返すこ
とで、それが習慣となり、最終的にそ
の人の生まれつきの性質のようにな
る、ということです。

もっとも、その人の人生をずっと見守っている人でない限り、生来かどうかはわからないものです。

「Habit」の代わりに「Custom」を使った「Custom is second nature.」も使われます。

452

Many a true word is spoken in jest.

日本語訳

多くの真実が冗談の中で話される。

日本の諺、「嘘から出た誠」、あるいは「瓢箪から駒」はある部分通じるもの

があるかも知れません。

最近のお笑いの世界では、クイズ番組などで、「ボケたつもりが正解してしまった。」ということがあり、芸人としては褒められないパターンと言えます。

標記の諺は、意図せずして「真実」を話してしまう場合を想定していますが、時としては冗談めかして、本音を言う場合もあると思います。

453

Paddle your own canoe.

日本語訳

自分自身のカヌーを漕げ

日本の諺にはピッタリなものは見当たりませんが、「自助努力」、あるいは「自力更生」に近いかも知れません。

要は、家族や友人に頼るのではなく、自身の能力と工夫によりことを行えという意味であり、アメリカで生まれた表現とされています。

カヌー自体が、他を頼りにできないものであり、言われると腑に落ちる表現と言えます。

同じ意味の諺として、「Every tub must stand on its own bottom.」があります。

454

Half a loaf is better than none.

日本語訳

食パン半分でもないよりまし。

日本の諺の「足るを知る。」に通じるところがあると思います。

標記は、パンを引き合いに出していませんが、普遍的な諺として「Something is better than nothing.」があります。

標記の諺の最後の「none」は「nothing」や「no bread」でもいいようです。

因みに、「loaf」の古い意味として「頭・頭脳」があり、「Use your loaf.」で、「あなたの頭を使え。」という意味になります。

455

Many go out for wool and come home shorn.

日本語訳

多くがウールを求めて出かけ、毛を刈られて帰宅する。

元々は日本の諺ではなかったと思いますが、現在は「ミイラ取りがミイラになる。」という諺として使われていて、標記の意味と近いとされています。

そもそも、「ミイラ取りがミイラになる。」は、古代のミイラが万能薬として

価値があり、その獲得が危険を伴い、
命をなくす人が少なくなかったことに
由来します

要するに、人を探しに行った人自身が
行方不明になったり、なんらかの説得
に行った人が、逆に説得されたりする
ことを意味する諺です。

456

Patience is a virtue.

日本語訳

忍耐は美德である。

日本の諺としては「石の上にも三年」

に近いかも知れません。また、人に対する寛容さとしては「ならぬ堪忍するが堪忍」に通じるものがあります。

焦って短期的な成果を求めると、成功する可能性を減じることになりがちです。耐える力が大切と思われれます。

因みに、「virtue」を含む別の諺として「Virtue is its own reward.」（徳行はそれ自体が報いである。）があります。

457

Half the truth is often a whole lie.

日本語訳

半分本当は度々全部嘘である。

日本の常套句として、「話半分」
がありますが、標記の諺はさらに信用
できないとしています。

事実と嘘が混在することは少なくあり
ませんが、半分なのか全部なのかは判
断が難しいところです。

変化形として、「Half a truth is often
a great lie.」、「A half truth is a
whole lie.」、「A half-truth is a
whole lie.」があります。

458

There is a tide in the affairs of
men.

日本語訳

人の出来事には潮時がある。

日本の諺としては、あまり耳にしません
さんが「物には時節」があります。

標記の諺に近い意味のものは数多くあ

り、「Opportunity knocks but once.」

（好機は一度だけノックする。）

「Strike while the iron is hot.」（鉄
は熱いうちに打て。）、「There is time

and place for everything.」（すべての

ものに時と場所がある。）などがあります。

459

Many hands make light work.

日本語訳

多くの手が軽い仕事を作る。

日本の常套句として「仕事は大勢（お
おぜい）」があります。

単純な作業、難しく言えば並行作業は、
手が多い方が作業終了までの時間はか
かりません。「猫の手も借りたい。」と
いう言葉がそのことを物語っています。
ただし、仕事の内容によっては多すぎ
て失敗することもあります。

このことを意味する諺として。「Too
many cooks spoil the broth.」（多すぎ
るコックはスープを損なう。）がありま

す。

460

There is honor among thieves.

日本語訳

泥棒にも信義がある。

日本の諺にはピッタリなものは見当たりませんが、標記の定訳は「盗人にも仁義あり。」になります。

泥棒でさえも仲間うちの信頼関係があるので、普通の我々も信義をおろそかにしてはいけないということです。

「honor」は基本的に「名誉・尊敬」の

意味ですが、ここでは「道義心・信義」の意味で使われています。

因みに、この後に「but none among gamblers.」（しかし、ばくち打ちにはない）と続くそうです。

■英語の諺 461-470

461

The hand that rocks the cradle rules the world.

日本語訳

揺り籠を揺する手が世界を支配する。

日本の諺にはピッタリなものは見当た

りません。

後の世に、大きな国や帝国を支配する大人物も、その母親によって乳飲み子から育てられます。

この意味において、世界は母親の手によって支配されると言えるとしています。

標記の諺は、19 世紀のアメリカの詩人ウィリアム・ロス・ウォレス (William Ross Wallace) の詩が由来とされています。

462

Many kiss the hand they wish to cut off.

日本語訳

手への沢山のキスは切り落とすことを望んでいる。

日本の諺としては、「口に蜜あり、腹に剣あり」があります。また、四字熟語としては、「面従腹背」が近い意味になります。

標記の諺は、中世ヨーロッパにおいて、敬意と服従を表すために、相手の手にキスをする文化があったことを背景としています。

同じ意味の諺として。「Full of courtesy, full of craft.」(満杯の礼節、満杯の企み。)があります。

463

The pen is mightier than the sword.

日本語訳

ペンは剣よりも強し。

日本の諺とも言えるほど、人口に膾炙してはいますが、標記の諺の翻訳と考えられます。

これは、「ポンペイ最後の日」(The Last Days of Pompeii)の著者として知られる、19世紀イギリスの小説家・政治家エドワード・ブルワー＝リットンに由来すると言われていています。

要は、当時の新聞などの記事は世論形成に大きな影響力を持ち、後世にも残るため、一過性の武力よりも勝るということでした。

464

Handsome is as handsome does.

日本語訳

ハンサムはハンサムがする行為のことである。

「handsome」は、日本語の「男前」に対応し、基本的には男性の外見のカッコよさのことです。

標記の諺では、外見のカッコよさではなく、行動がカッコいいことを「handsome」とするべきだとしています。

説明的なわかりやすい表現にすると、「 Handsome is he who does handsomely. 」になります。

また、「handsome」を「pretty」に代えた「Pretty is as pretty does.」も使われます。

465

March comes in like a lion, and goes out like a lamb.

日本語訳

三月はライオンのように来て、子羊の去る。

現代はどうかはわかりませんが、中世のイギリスでは、三月初旬は荒れた天候が常であり、下旬になると穏やかな天候になり、四月にバトンタッチすると認識されていたようです。

因みに、春先の中世イギリスの天候に関しては、他にも、「March winds and April showers bring forth May flowers.」や「April showers bring forth May flowers.」という諺があります。

466

A penny saved is a penny earned.

日本語訳

1ペニーの節約は1ペニーの稼ぎである。

日本の諺としては、やはり「塵も積もれば山となる。」に近いのでしょうか。この言葉は、凧を上げて雷が電気の現象であることを証明した、18世紀のアメリカの物理学者で政治家であった、ベンジャミン・フランクリン（Benjamin Franklin,）ものとされています。

同じ意味の諺として、「Thrift is a great revenue.」（節約は偉大な歳入である。）があります。

467

Happy is the bride that the sun shines on.

日本語訳

太陽が降り注ぐ中の花嫁は幸せである。

日本の諺にはピッタリなものは見当たりません。

標記の諺が、ヨーロッパのどこまで普遍的な俗信かはわかりませんが、少なくとも中世のイギリスではそう信じら

れていたようです。

因みに、葬式の際の天気については、むしろ雨の方がよかったようで、

「Blessed are the dead that the rain rains on.」(雨に降られる遺体は祝福されている。)とされています。

468

There is luck in odd numbers.

日本語訳

奇数には幸運がある。

日本にも古くから、「陰陽思想」なるものがあり、この思想では奇数を「陽数」として縁起の良いものとしていました。

標記の諺が中世ヨーロッパにおいて、どこまでの広がりや強さを持つ俗信なのかわかりませんが、日本の陰陽思想と通じている点は興味深いですね。奇数の代表「3」を使った諺として、「Third time lucky.」や「The third time pays for all.」があります。

469

Marriage halves our griefs, doubles our joys, and quadruples expenses.

日本語訳

結婚は私たちの悲しみを半分にし、私たちの喜びを倍にし、支出を4倍にす

る。

日本でも、標記の2項目までは、結婚式のお祝いの言葉などでよく知られています。

しかし、終わりの「quadruples expenses」の部分は、お目出度い席では言及されていないようです。

疑問としては、支出が4倍になる根拠がわからないことです。日本では、むしろ、一人では暮らしていけない収入なのに二人ならやっているとされています。

文化や価値観の違いでしょうか。

470

There is no little enemy.

日本語訳

小さな敵はいない。

日本の四字熟語としては、意訳になりますが、「油断大敵」が対応するようです。

要するに、標記の諺は、「大した敵ではないと高をくくっていると、敗北を喫するかも知れない。」として、「小さな敵はいない」と戒めているわけです。

因みに、冒頭の「油断大敵」により対応した表現として、「Security is the greatest enemy.」（安全は最大の敵である。）があります。

■英語の諺 471-480

471

Happy is the country which has no history.

日本語訳

歴史のない国は幸せである。

日本の諺としてはピッタリなものは見当たりません。

かなり、皮肉交じりの表現なので、過去の君主や政治家の言葉のような印象ですが、固有名詞としての人物はわかりません。

意味としては、新しい国は何にも縛られないで政策や施策が打てるのに、歴史の長い国は、慣習やしがらみのため、自由度が低いということです。

因みに、「history」を含む最も有名な諺として「History repeats itself」（歴史は繰り返す。）があります。

472

Marriage is lottery.

日本語訳

結婚は宝くじである。

日本の諺としてはピッタリなものは見

当たりませんが、ある意味では「縁は異なるもの」に通じるものがあるかも知れません。

日本語訳で「宝くじ」としましたので、「めったに当たらない」という解釈になりますが、この諺の成立時点ではそこまで否定的なものではなかったかも知れません。

より中立的な諺として「Marriages are made in heaven.」があります。

473

Penny wise, pound foolish.

日本語訳

ペニーに賢く、ポンドに愚か。

日本の諺としては、「一文惜しみの百失
い」が対応しています。

節約の美德を説く「A penny saved is a
penny earned.」（1ペニーの節約は1
ペニーの稼ぎである。）という諺もあり
ますが、ここでは節約すべきでない「a
penny」があるとしています。

また、古い諺として、「Don't spoil
the ship for a ha'porth of tar.」（半
ペニーのタールのために船をダメにす
るな。）というものもあります。

Hard cases make bad law.

日本語訳

厳しいケースは悪い法律を作る。

日本には、標記の諺の発想はないのかも知れません。

法律は、時代性も伴い、事件が起きてから整備される傾向があります。

専門家でないと、どのようなものを「hard case」とするのかわかりませんが、どうも、「悲惨で、判断が難しい案件」を指すようです。

また、判例が蓄積される前は、むしろ原告に不利な法律になりがちと言われています。

475

Marry in haste and repent at leisure.

日本語訳

急いで結婚して、ゆっくり後悔しろ。

日本の諺として、男の論理ですが、「悪妻は百年の不作」がありますが、標記の諺にピッタリなものは見当たりません。

「Love is blind.」(恋は盲目)
で結婚し、冷静になると後悔するパターンは、洋の東西を問わないようです。
結婚に関するポジティブな諺としては、

「June marriages lucky.」（六月の結婚は運がいい）があります。

476

Politics makes strange bedfellows.

日本語訳

政治は不思議な仲間を作る。

日本の諺としてはピッタリのものは見当たりません。

政治の世界は、様々な思惑が交錯し、どの政治家がどの政治家と連携するのは簡単には見通せないものです。

「strange bedfellows」は、遡るとシ

シェークスピアの作品「テンペスト
(The Tempest)」の中の一節のよう
です。

「Politics」を「Misfortune」に代
えた、「Misfortune makes strange
bedfellows.」(不幸は不思議な友を作
る。)があります。

477

Hard words break no bones.

日本語訳

きつい言葉は骨を折らない。

日本の諺としては、ピッタリなものは

見当たりません。

ここでの「Hard words」は、「非難の言葉・悪口」という意味になります。

人は、物理的な打撃よりも、言葉による暴力で傷ついてしまうことがあります。その際に、この諺を思い出して、気を取り戻すべきでしょう。

「Sticks and stones break my bones, but words will never hurt me.」(棒と石は私の骨を折るが、言葉は決して私を傷つけない。) という諺もあります。

478

There is no royal road to learning.

日本語訳

学びに高貴な道はない。

日本の諺としては、「学問に王道なし。」
がありますが、標記の翻訳と思われ、
定訳とみるべきでしょう。

そもそも、「ユークリッド幾何学」で知
られるギリシャの数学者ユークリッド
が、エジプトの王に、「簡単に幾何学を
マスターする方法」を問われた時に答
えた言葉とされています。

「royal road」は、王侯たちのために、
きれいに整備された歩きやすい道とい
うことです。

479

Might is right.

日本語訳

力は正しい。

日本の諺として、「勝てば官軍」に対応しているとされていますが、これは日本における歴史的な背景のある言葉であり、かなりニュアンスが違います。

標記の諺は、無邪気に考えれば、「正義は勝つ。」であり、少し穿った見方をすれば、「勝った者が正義である。」ということですよ

変化形として、「Might makes right.」、主語と補語を逆にして、「Right is might.」、「Right makes might.」があ

ります。

480

There is no rule without an exception.

日本語訳

例外のない法則はない。

日本の諺のように思われますが、標記の諺の翻訳のようです。

自然科学においては、一度定説になった法則に例外が発見された場合、その例外も含めてすべてを説明する複数の仮説が提唱され、その一つが新しい定

説になります。

社会科学の分野では人間が作ったルールには常に不備があるということです。以下のように、多くの変化形があります。

「There is no rule without exceptions」、
「There is an exception to every rule.」、
「The exception proves the rule.」

■英語の諺 481-490

481

He gives twice who gives quickly.

日本語訳

すぐに与えてくれる彼は二度与える。

日本の諺にはピッタリなものは見当たりません。

要するに、標記の諺は、何かの援助をすぐにしてくれる人は、二度目も、あるいは2倍の援助をしてくれる人であるとしています。

因みに、ここでは「twice」は「2倍」の意味を採用すべきでしょう。

また、本当に心配してくれる人は速いアクションをしてくれ、計算高い人はぐずぐずしているという意味も含んでいます。

482

The mill cannot grind with water that is past.

日本語訳

水車は過去の水で粉を挽くことができない。

要は「時は戻せない。」という意味であり、日本の諺としては、「覆水盆に返らず。」が意味的には近いでしょうか。

ただし、一般的には、「覆水盆に返らず。」

は「It is no use crying over spilt milk.」に符合すると理解されています。

変化形として、「A mill cannot grind with the water that is past.」や

「The mill will never grind with the

water that has past.」があります。

483

Poverty is no sin.

日本語訳

貧困は罪ではない。

日本では「清貧の思想 清く貧しく美しく」という表現がありますが、標記の諺にピッタリなものは見当たりません。変化形として、「Poverty is not a crime.」（貧困は犯罪ではない。）や「Poverty is no disgrace, but it is a great inconvenience.」（貧困は不名

誉ではないが不便である。) があります。
因みに、SDGs の Goal1 は「No poverty」
が設定されています。

484

He laughs best who laughs last.

日本語訳

最後に笑う彼が最も笑う。

定訳としての「最後に笑う者が最もよく笑う。」は、すでに日本の諺になっていると言えます。

イメージとしては、戦国時代の覇権争いのように、次々と新しい勝者が現れ

る状況にあって、三日天下の時点で喜ぶのは早いということでしょうか。日常生活の中では、勝利や成功が確定するまで喜ぶなということですね。標記と同じ頻度で使われる、「He who laughs last laughs longest.」という変化形があります。

485

The mills of God grind slowly, but they grind exceeding small.

日本語訳

神の水車はゆっくり粉を挽くが、極限まで小さく挽く。

日本の諺としては、「天網恢恢疎にして漏らさず。」が近いでしょうか。

人の行動はすべて神が見ていて、遅かれ早かれ、その報いは神によりもたらされるということです。

標記のロングバージョンとして、「The mills of the gods grind slowly, but they grind exceedingly fine.」があります。

この世界観は、すでにキリスト教が成立した直後から存在していたようです。

486

Praise the child, and you make love

to the mother.

日本語訳

その子を誉め、あなたは母親を口説く。

日本の諺としては、「将を射んと欲せばまず馬を射よ。」があり、比喩的に使用すると近いものと言えます。

ただし、標記の諺は、どうしてもシングルマザーを口説く状況がイメージされ、「将を射んと欲せばまず馬を射よ。」のように比喩としては使いにくいと思われれます。

因みに、「the child」をその人が最も大切にしているものと捉えれば、普遍的な真理と考えられます。

487

He that buys land buys stones, he
that buys meat buys bones.

日本語訳

土地を買う者は石を買い、肉を買う者
は骨を買う。

日本の諺にはピッタリなものはに当たり
ません。

要は、何かを購入する際には、必要な
ものだけを買いたいものですが、付い
てきてしまうものがあるということ
です。

変化形として、「You buy land, buy stones, you buy meat, buy bones.」
や、少し意味を付加した「He that buys eggs buys many shells, but he that buys good ale buys nothing else.」があります。

488

There is no time like the present.

日本語訳

現在のような時間はない。

日本の常套句としては、「天の時」が近いでしょうか。

上記の日本語訳で、「I like the present」を「現在のような」としましたが、「現在＝今ほど良い時はない」と「良い時」を補って理解すると、意味がはっきりします。

つまり、「好機を逃すな」、「躊躇するな」と励ます言葉です。

この意味では、「Tomorrow never comes.」と同様と言えます。

489

Misery loves company

日本語訳

悲劇は仲間を愛する。

日本の諺としては、「同病相哀れむ。」
が対応しているとされています。

遡ると、この「misery」と後述する諺
中の「bedfellows」が含まれる表現は、
16 世紀のシェークスピアの作品に登場
しています。

因みに、その諺は「Misery makes
strange bedfellows.」（不幸は見知ら
ぬ友達を作る。）であり、「bedfellows」
は「ベッドを共にするほどの親友」の
ことです。

490

There's many a slip between the cup

and the lip.

日本語訳

カップと唇の間には、沢山の滑りがある。

日本の常套句としては。「油断は禁物」ということでしょうか。

ここでは「slip」は「しくじり」という意味にもなります。

要するに、「無事だとは思ってもしくじりはある。」ということです。

実はこの諺は、古代ギリシャの時代、「死を予言されてしまった王にまつわる故事」に由来しています。

標記の諺は、予言の刻限の直前に、「何も起きなかったじゃないか！」とワイ

ンを飲みかけた王に対して言われた言葉ということです。

■英語の諺 491-500

491

He that goes a-borrowing goes a-sorrowing.

日本語訳

借金をする彼は後悔する。

日本の常套句としては、「借金地獄」という言葉がありますが、ピッタリの諺は見当たりません。

標記の諺は、借金をすると後悔するの

で、やめた方がいいと主張しています。成功する見込みのある投資であればいいのですが、返す当てのない借金は悲惨な結果を招きます。

別の諺、「Neither a borrower nor a lender be.」（借り手にも貸し手にもなるな。）の方が明確なメッセージと言えます。

492

He who pays the piper calls the tune.

日本語訳

笛の奏者に金を払った彼が曲を選ぶ。

日本の諺には、ピッタリのものは見当たりません。

要するに、何事につけても出資者が、お金の使い方に関する意思決定の権利を有するということです。

因みに、「piper」とは「バグパイプ奏者・流しの音楽家」という意味があります。

ここでは、「money」は文中に登場しませんが、実質的には、「Money is power.」（金は力なり。）、「Money talks.」（金がものを言う。）という諺と内容は同じことです。

493

Misfortune never comes singly.

日本語訳

不幸は単独では来ない。

日本の諺としては、「泣きっ面に蜂」、あるいは「二度あることは三度ある。」に通じるものがあります。

望ましくない出来事は、快々として繰り返して起こることがあります。おそらく、状況が悪いことが起こる時間帯にはまっていると思われれます。

因みに、一度何か悪いことが起こる状況では、その程度が著しいことが少なくありません。この点を表した諺として、「It never rains but it pours.」があります。

494

Pretty is as pretty does.

日本語訳

可愛いは可愛いやり方のことです。

日本の諺にはピッタリなものは見当たりません。

要するに、「可愛らしく振舞う女は可愛い。」という男の勝手な見方です。

正しい文にすると、「Pretty is she who does prettily.」ということでしょうか。

因みに、標記の諺の「いい男」バージ

ヨンは、「Handsome is as handsome
dose.」、「美人」バージョンが、
「Beauty is as beauty dose.」があり
ます。

495

A miss is as good as a mile.

日本語訳

少しのはずれも 1 マイルも同じである。

日本の諺としては、「五十歩百歩」が近
いと思われます。

「miss」は「ほんの少しの的はずれ」
であり、「mile」との対比が生まれるこ

とになります。

つまり、小さなはずれであろうが、1
マイルのはずれであろうが、「はずれは
はずれ」ということになります。

標記は、かなりの言葉が省略されてい
ますので、それを補うと、「An inch of
a miss is as good as a mile of a
miss.」となります。

496

Pride feels no pain.

日本語訳

プライドは痛みを感じない。

日本の諺としては「武士は食わねど高楊枝」に通じるものがあるかも知れません。また。常套句としては、「やせ我慢」も近いかも知れません。

辛い状況にあっても、泣いたり悲しそうな顔を見せることを、恥ずかしいとかカッコ悪いことと思う人は、平静を装うものです。

「pain」の代わりに「cold」を使った、「Pride feels no cold.」という諺もあります。日本の諺としては、「伊達の薄着」に対応しています。

497

He that is down need fear no fall.

日本語訳

落ち込んでいる彼は失敗を恐れる必要がない。

日本の諺ではピッタリのものは見当たりませんが、「背水の陣」という常套句とは通じるものがあるかも知れません。要は、恵まれている人間は失敗を避けようとしませんが、元々貧しかったり、不運に見舞われ、相当悪い状況にある人間は、「もう後がない」と覚悟を決めて、果敢な行動に打ってでるべきだということです。

使い方を間違えると、相手を怒らせま

498

There is no smoke without fire.

日本語訳

火がなければ煙はない。

日本語の諺としては、「火のないところに煙は出ない。」ですが、標記の諺の翻訳かも知れません。

要するに、煙という結果を見たら、出火を疑えということであり、比喻として、何かの結果にはそのことをもたらした原因があり、隠しおおせるものではないということです。

「There is」を省略した、より端的な表現として、「No smoke without fire.」があります。

499

Money begets money.

日本語訳

お金はお金を産む。

日本語の表現としても、「金が金を産む。」は耳にしますが、諺とは呼べないかも知れません。

「beget」は、「子を産む・を招く」という意味の言葉ですが、文語的な感じ

がして、諺には相応しい言葉と言えます。

ほぼ同じ意味の諺として、「Money makes money.」があります。

また、「beget」を使い、標記の諺と同じ構造の諺として、「Love begets love.」があります。

500

He who rides a tiger is afraid to
dismount.

日本語訳

虎に乗る彼は降りることを恐れる。

日本でも、「虎の威を借る狐」や「虎の尾を踏む。」など、中国から伝わったと思われる「虎」に関連した諺や常套句・慣用句は数多くあり、近いものとしては「騎虎の勢い」でしょうか。また、一説では、標記の諺も中国の諺がルーツとされています。

標記の意味すとは、虎に跨っていること自体が危険であるのに、降りると食べられてしまうというより危険が待っていて、降りるに降りられないということです。